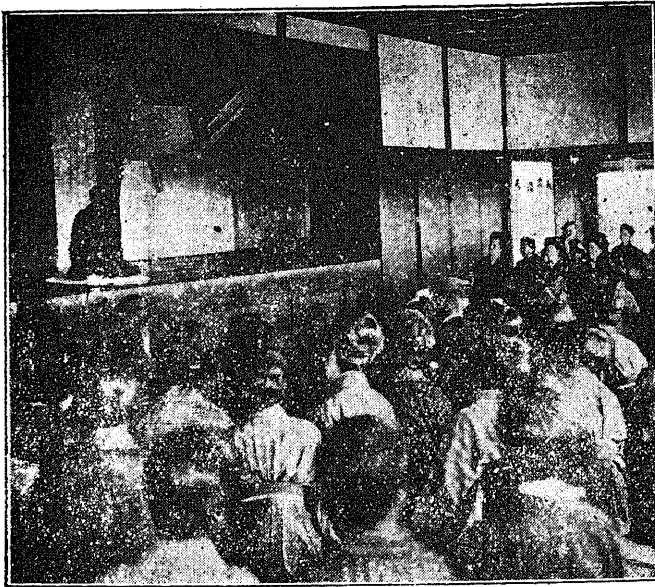


多摩川に遊ぶの記

記 者



市内各園の保姆諸氏百五十餘名は去る六月九日
多摩川へ清遊を試みられました。

梅雨に入らうとする前の、ともすると曇り勝ち
な湿っぽいお天氣がその前日まで續いてゐました
が當日は無類の好天氣、どなたも先づ御挨拶の後
には、お天氣都合の誠によろしいといふことを褒
めない方はありませんでした。

多摩川電車の起點澁谷停車場前に午前九時まで
に參集、各自に乗車券を受取つて電車に乗り、終
點の一つ手前の停留場で下車して玉川閣に集合す
るといふことが當日のお約束の一つでした。この
「遊び」に多大のお骨折を惜まれなかつた幹事の土
川五郎氏は朝の七時頃からお宅を御出發になつた
のださうですが澁谷の起點へ來たらもう二三今日

の會員の方々の集つていらつしやるのを見て驚かされたさうです。それ程に今度の計畫は皆さんに心からの御賛成を得たわけなのです。さうです。「遊び」といふ事が我々にも本當に必要なのでありません、而して「遊び」の計畫はこれまで幾度も相談されたにも拘らずいぞ實現せらるゝ日がなかつたのであります。その待ちに待たれた「遊びの日」が今日になつたのであります。我々は本當にうれしかつたのです。日光の圓舞、緑の管絃樂、斯ういふ自然の藝術、健康的な歡喜を味ふことは本當に教育者の名にふさはしい所行ではありませんか。

電車は畑の傍を走り、林の中を潜つて行きました。而して多摩の河原近くへ出てからは水田を堤の下に見るやうになりました。武藏野の特徴は畑と林とまばらな人家だと或人が言ひましたがそれは本當でした。水田のあるところは多摩の河原のホンの少しばかりの地です。

多摩川電車の終點の一つ手前の停留場——それ

は慥か「遊園地前」といふ名であつたと思ひます——で電車を下りて、右へ坂を下ると水田があります。すぐ四五丁先きに丘があつて、その中腹よりやゝ上に純日本式丹塗の建物が見えます、これは多摩川電氣株式會社で經營してゐる遊園地内の玉川閣といふ建物で、今日我々の楽しい會合の午前の部がこゝで過されやうとするのであります。水田には水が涸れてゐました。お百姓は一生懸命にこの乾きかけた土を掘りかへして居ました。近い内にあのやさしい早苗が植ゑられて、目の覺めるやうな青田が風に戦ぐやうになるのでせう。

爪先上りの坂を少しのぼると遊園の入口があります。門を入ると虞美人草が澤山咲いてゐました。遊園地全體はなだらかな傾斜を爲した一つの丘で鹿や猿の檻が此所彼所にあり、又丘の一部を平かにしてテニスコートやベースのグラウンドが出来てゐました。

丘の上の玉川閣は平家建で百疊敷程の廣間があ

ります。天井は格天井になつてゐて龍か何かを描いてありました、それがひどく支那的效果をこの廣間に與へてゐます。否單に格天井の模様以外に朱塗の欄干に凭つて多摩川の清流を望んだところは必ずや支那の文人を悦ばせるであらうと思はれました。六月の始めに蟬の聲が聞えてゐました、而して我々に夏といふ感じを強めさせてくれました。

新緑の毒素といふ程のはげしい言葉を用ゐないまでも、我々はおの生々



とした、はち切れさうな、外へ押し出さなければ止まないやうな力を滲えた鬱勃たる木々の緑葉から一種の壓迫感を與へられることは事實であります我々はこの緑の壁に壓倒されさうになつた眼を打ち展けた河原の方へ轉ずることによつて視線の解放をよろこぶことが出来るのであります。

玉川閣へ會員諸氏が残らず御到着になつたのが十時頃でしたらうか。土川五郎氏が今日の會合の挨拶をなさいまして、それから直ぐに柳家小さん

の落語が二席續きました。最初の話は「厩火事」といふのでした。髮結さんが自分の連添ふ夫の眞實が解らないので型の如く家主のところへ相談に行きます。物識りの家主は孔子様のお言葉を引事にして、夫の大切にしてゐる瀬戸物を持つたまゝ轉んでそれを破壊して丁へ、而してその時夫が瀬戸物のことを言はずにお前の身體に怪我はないかと心配してくれたら眞實のある證據だと智慧を借してくれます。この話のサゲはつまらないものです。が、髮結さんが大家さんへ相談にゆくところが實に面白いのです。物の分らない長屋住居の女房が眼の前へ出て來ます。自分の亭主を信じてゐるのか信じてゐないのか一向譯の分らぬところも斯ういふ種類の女らしくてよいと思ひました。女房が轉んだ物音を聞いて亭主が「オイ何うした」と聞いてゐる時我々はこのお神さんと一緒に亭主が孔子様と同じやうな言葉を言ふか何うかと心配しました、而して案外にも亭主が「怪我アしやアしねえ

か」と叫んだとき我々も安心します、しかし一寸飽氣ない感じがしないでもありません、果して女房が喜ぶと亭主は飛んだ憎まれ口を叩きます、「お前がまゐつて了ふと俺が酒を飲めなくなる」。落語の話には矢張理想的のいゝ話といふものはすくないと見えます。尤も落語に對して理想呼ばはりをするのがテンから野暮と仰有ればそれもさうですと引込んで了ふまでのことです。同じく皿をこわす綺堂の新作番町皿屋敷もあまり感心したものではありません、すべて皿こわしは皿に面白くありませんなんて齒の浮くやうな洒落も「遊び」の氣分が性質のよろしくない脱線をしたからでせう。さうざ屁理窟を言つて置いて又小さんでもありませんまいが、もう一つの小さんのはなしは「てんしき」といふのでした。この「てんしき」にせよ、「耐豆腐」にせよ、落語は餘程皮肉なものです。てんしきといふのはお寺の小僧さんの説明によると盃のことださうです。しかしてんしきはそれ以外に黃

色の甘藷性毒瓦斯を意味するのでありまして、お寺の和尚さんがこの隠語を知つた振りをしたが爲めに飛んだお笑ひを演ずるといふのがこの落語の筋です、サゲを言はなかつたところに小さんの貫祿があるのでせう。落語はすべて場景シーンの描寫デクリエーションを用ゐませんが「てんしぎ」の和尚と醫者との對話にはお寺の大廣間の堂々としてゐるところを描寫して話したならば、このとんちんかんな對話が更に一層引立つたであらうなぞと和尚さんに對しては至極可哀さうな批評をなされた方もありました。

小さんのはなしで一しきり休憩、寄席で行くと申入るといふことになりました。百疊敷の廣間に皆さんはお辨當をお擴げになりました。食べもの品の評會とお間違になつた方が澤山あつたかも知れませんが、到る所にお菓子お菓子の山、果實果實の林、いやもうおいしいことでした。

賑かな食事が終ると又餘興が始まりました。今度は渡邊省三翁の新淨瑠璃でした。

通俗教育新淨瑠璃の創作者たる渡邊氏は松菊齋といふ號をもつて居られます、山梨縣の方で曾て縣吏郡宰等の官歴を經、詩歌、音樂等多方面の趣味を有さるゝ老翁であります。日露戰爭の時、先帝陛下の御製「世と共に語り傳へよ國のため命を捨てし人のいさほは」に感激し、奮然他事を抛ち戰役に於ける勇將猛卒の事蹟及び正史に傳はる忠臣義士の事蹟を書き綴り義太夫節に作曲自演せらるゝのであります。この日は「乃木大將誠忠記」の内の爾靈山夜營夢といふ一段が語られました現代式の對話と地の文との移りが耳馴れぬ内は一寸可笑しかつたのですが直ぐ馴れて了つて乃木大將は無論のこと志賀重昂先生や山岡參謀やが目の前に現れて來るやうになりました。大體の筋は乃木大將が爾靈山下の陣營で深更に書類を閲檢して居られると息子保典氏が土まみれの軍服を着て影の如く現れました、大將は何故戰線を脱して自分のところへ來つたかと大いに怒つて戰線へ追返しますと丁度その翌日保典氏の戰死が將軍のお耳に達するといふのであります。如何にも凄壯な戲曲的な

場面が實に巧みに美しく語られました、大分手巾を濡らしてゐる方も見受けられました。

淨瑠璃が終つてから、皆さんは玉川閣を出て兵庫島の遊園、即ち多摩の河原に下り立つことになりました。こゝで寫眞をとつてからは隨意解散してもよろしいのでした。

玉川閣から河原までは四丁位もありませうか、幾條の清流は徒渉の出来る位の淺さに走つてゐました。二寸から三寸位の鮎をいろ／＼の仕方であつてゐる人が澤山ありました。多摩川はゆるい曲線をながいて上流へも下流へも遠く遠く延びてゐました。川の旋轉に連れて森が遠くへ幾重にもかさなつてゐました。河原にはブランコや圓木があります。尙その他小石と砂はいくらでもあります記念に小石を拾ふ方、砂の上にとゐして睡じさうにお菓子を上つていらつしやる方々、たのしみは限りがないやうに見受けられました。(終)

附記、この日の催しに對してはフレーベル會、東京市保育會、フレーベル館より寄附金がありまして餘興其他の支出に辨じました。

雜 錄

文部省講習會

文部省に於ては來る八月一日より同十日に至る十日間東京女子高等師範學校に於て幼稚園長及保姆の爲め左記の通り講習會を開催すべしとなり。

一、北海道廳及各府縣講習員の定員は保育科に在りては三人、其他の學科目に在りては各一人とす

一、講習員は地方長官之を選定す

一、地方長官は講習員を選定したるときは本人の氏名、職名、講習を受くべき學科目を記載したる選定書を七月十八日までに文部省普通學務局に差出し講習員を開會前日までに講習會場に出頭せしむべし

一、前表記載の資格を有せざる者は講習員として選定することを不得す

一、地方長官は定員以外に於て豫備員を選定することを得

一、文部省に於て前項豫備員を許可したるときは其の旨地方長官に通知す

一、講習を終りたるときは講習員の出席を査案して證明書を授與す

保育科講習要目